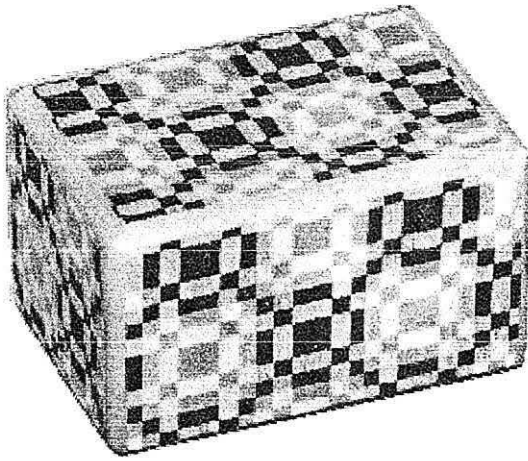


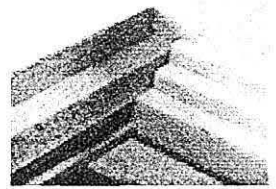
ひみつばこ  
秘密箱



いっけん きばこ  
一見、ただの木箱に見えますが、これは  
ひみつばこ  
「秘密箱」といいます。どこがヒミツかっ  
て？ それは、この木箱が簡単には開けら  
れないように作られているからです。けれ  
ども、カギがかけられているわけではありません。あるヒミツの手順で、箱の側面や  
うわいた そこいた  
上板、底板を上下や左右にスライドさせたり、おしたり引いたりして、やっとフタを  
開けることができるのです。

パズル的なおもしろさがあるこのし  
かけは、すべて木でできています。

動かす板は、面全体が動くとは限り  
ません。板の端っこやまん中だけが動  
く場合もあります。このような板のつ  
ぎ目を目立たなくするのに、表面の細かい図形模様が役立っています。



この模様は色をぬって作っているわけではありません。この模様を作るには、  
まず、いろいろな種類の細い木の棒をぴったりと合うように何本も束ねてブロッ  
クを作ります。木材は種類が違くと色が違うので、その断面には模様ができます。  
これを「寄木細工」といい、このブロックをそのまま加工する場合もありますが、  
秘密箱では、うすくけずってうすい紙のようにした木の板を表面にはって作って  
います。板のつぎ目をわかりにくくするだけでなく、板の反りを防ぎ、秘密箱の  
ひずみをなくしてしかけがうまく動くようにするという効果もあります。

箱根地方の伝統工芸品である「秘密箱」は、江戸時代からある「からくり」細工  
を小箱類に応用したのがはじまりで、明治の中頃にこのような形になりました。  
現在でもいろいろな改良がなされており、少なくとも2回、多いのは55回もの  
操作でやっと開く箱もあります。

この秘密箱は、夏の特別展「しかけに挑戦！！ 不思議なからくり展」で見  
ることができますので、ぜひおこしてください。  
（市川真史）